

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【勝北中学校版】

1 津山市重点取組

津山市立勝北中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	教職員全員と学方向 上担当者	全国学力・岡山県学力調査の問題分析から見える改善のポイントをふまえた授業研究を行い、授業改革推進員の指導、助言をいただきながら、生徒が発言したり文章等で表現したりする授業改善のポイントをより明確化していく。	2学期中	「教わる」から「学ぶ」へ生徒の授業感を転換し、自ら学ぶ姿勢をつくる授業改革。 ・ペア学習、グループ学習の活用及び改善を行う。 ・自分の考えを表現する機会を増やす。 ・受け身の授業から体験的に主体的に生徒が授業に臨む学習内容の構築・改善	生徒が主体的に授業に生き生きと取り組み、各教科を好きと肯定的に回答する生徒が60%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	全教職員	情報モラルの指導やスマートフォンの使い方 家庭学習の充実	年間を通じて	・PTAの懇談会や広報活動を通してスマホ使用の約束を各家庭で徹底できるように啓蒙する。 ・生徒会活動、学級活動、教科を通してスマホを使用するモラル、使用方法を指導していく。 ・課題の出し方や評価の方法の工夫をする。	規律を持ってスマホを使用し、使用時間が1時間以内の生徒が50%以上。 家庭学習に2時間以上取り組む生徒が40%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
<p>○国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は漢字の読み書きなどの基礎的分野の正答率が高いが、文法・語句に関する知識、読み取る力、書く力は低い。 2年生は漢字の読みは標準であるが、全般的に低く、特に「聞く」「文を読み取る」力が不足している。 3年生は伝えたい事項について根拠を明確にして書くことについては、教科の授業だけでなく学級や学年の取り組みとして書く活動を多く取り入れていることが成果になって表れている。 <p>○数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は基礎的な計算の技能や関数をグラフにする正答率が高いが、百分率やグラフからの読み取りや図形の分野は低い。 2年生は全領域とも県と比べ低いが、特に関数の活用や数学的に説明することに無解答が多い。 3年生は、資料の整理の領域以外では、平均を上回っていた。 <p>数学的な技能は劣っているが、数学的な見方や考え方を問う問題はよくできていた。</p> <p>○英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生は全領域とも低いが特に英文の要点を聞き取ることや英文を完成させることに無解答が多い。 3年生は与えられた情報を読み取り、内容を理解する項目は高いが、「聞くこと」、「書くこと」は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来への夢や目標を持っている生徒の割合は、13年生は高い。 ○規範意識は全学年とも県平均と同じであり、いじめに対する意識も高い。 ○家庭で自分から計画を立てて勉強する割合や一日当たり1時間以上家庭学習をする生徒の割合は高い。 ○毎日1時間以上読書をする生徒の割合は高いが、読書が好きな生徒の割合は低い。 ○学校へ行くのが楽しいと思う生徒の割合はかなり高い。 ○地域の行事へ積極的に参加している生徒の割合はかなり高い。 <ul style="list-style-type: none"> ●自己肯定感が全学年とも低い。 ●あいさつに対する意識は、全学年ともかなり低い。 ●テレビを見る時間やゲームをする時間のルールを家の人と決めている割合は、全学年ともかなり低い。 ●ゲームを月から金曜日まで2時間以上する生徒が50%以上いる。 ●スマートフォンやインターネットを月から金曜日まで2時間以上する生徒が30%以上いる。 ●テレビ、DVDを月から金曜日まで2時間以上視聴する生徒が50%以上いる。

成果

<p>○国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事項について根拠を明確にして書くことについては、教科の授業だけでなく学級や学年の取り組みとして書く活動を多く取り入れていることが成果になって表れている。 <p>○数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな知識や技能を習得するとき、既習事項の確認とその関連性を伝えることにより理解が深まった。 <p>○英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた情報を読み取り、内容を理解することは概ねできていた。
--

課題

<p>○国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科全般に課題がみられるが、特に「読む」この領域では、文章の構成や展開、表現の仕方について理解をし、自分の考えを深めることに課題がある。 <p>○数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 頻繁に使用しない用語やそれぞれの学年で学んだ内容について再確認が必要である。 「なぜ」という問いかけに対して自分の考えを深めることが必要である。 <p>○英語</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを正確に英文で書くことを苦手とする生徒が多数いる。 まとまりのある英文を聞いて、話の概要を理解することを苦手とする生徒が多数いる。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
表現する力をつけるために、岡山型学習スタンダードを踏まえた授業改革	本年度末までに	記述式の回答において無回答がなくなるように	授業研究を行い、授業改革推進員の指導、助言をいただきながら、生徒が発言したり文章等で表現したりする授業改善のポイントを明らかにしていく。					
既習事項の整理が生徒の身につくための工夫 ・補充学習 ・自主学習プリントの活用	本年度末までに	・自主学習プリントを5教科準備する。 ・生徒の自主学習プリント活用率が60%以上になる。 ・補充学習の時間を設定、実施する。	・各教科の担当者に東洋データベースから復習プリントを選んでいただき、各教科12、13枚程度の自主学習プリントを準備し、各家庭へ置く。活用に関しての厚付け等の工夫を行う。 ・放課後10分間(3年生は25分間)の時間を設定し、補充学習を行う。					
家庭学習の定着と充実 ・課題の出し方の改善 ・授業の内容の振り返りができる課題の工夫 ・課題提出に関する評価の仕方の工夫	本年度末までに	・全教員による、各教科ごとの課題の出し方についての情報の共有化を目指す。 ・課題提出に関する評価の仕方を改善する。(生徒への見える化、表彰等)	・各教科の担当者からの課題の出し方についての情報を集約し、全教員で情報共有する場を持つ。 ・課題提出に関する評価の仕方を生徒への見える化、表彰等を行うなど、改善し、改善点を共通理解する場を持つ。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

<ul style="list-style-type: none"> 「靴揃え」、「チャイム着席」の徹底 家庭学習の手引の共有化 「ノーマディアチャレンジ週間」の継続と取組の検証、改善を行い、家庭での過ごし方について見直す機会にする 県・全国学力学習状況調査の分析を基に学力の向上を目指した授業改善に取り組む
--

保護者・地域へ理解・協力を求めること

<ul style="list-style-type: none"> 地域での声掛けや見守りを継続する。 夢や進路についての家庭での話し合いを充実させる。 スマホやゲーム、ビデオ等の使用に関する家庭でのルール作りを行う。 生徒が取り組んだことへの評価を適切に行う。 自己中心的な言動にならないよう、他者との繋がりを大切に。
--